

早春の花々を楽しむ
延岡花物語のイベント
「このはなウオーク」
会場となる延岡市野地
町の五ヶ瀬川右岸堤防
で3日、市民グループ

・コノハナロード延岡
市民応援隊（松田庄司



コノハナロードの花壇に菜の花の種をまく会員（3日、延岡市野地町）

春には100万本の菜の花

市民応援隊が種まき

延岡市野地町
の堤防

理事長）会員20人が菜
の花の種まきを行っ
た。毎年この時期に
行っており、イベント

が開催される来年2月
には約100万本の菜
の花が咲き、来場者の
目を楽しませる。

参加者は、五ヶ瀬川
の松山橋から五ヶ瀬大
橋まで約1100mの
堤防にある花壇に散ら
ばり、慣れた手つきで
作業。花壇は10日間隔
で白線が引かれ、土の
表面を熊手でならしな
がら、この白線の間
に約20gの種を丁寧
にまいた。

松田理事長は「1週
間ほどで発芽するの
で、良い天気が続いて
ほしい。延岡花物語を
盛り上げ、皆さんに喜
んでもらえれば」と話
した。同隊は、今後も
水やりや害虫駆除、草
取りなどを定期的に行
うという。

第7回延岡花物語は

来年2月10、11日の松
山町の本東寺慧日梅
（えにちはい）観梅会
からスタート。このは
なウオークは2月22
4日に開催。これまで
2日間だったが、来年
は3日間の日程となっ
た。3月20日～4月5
日まで、ワイワイ花言
物語があり、城山公園
で石垣でのプロジェクト
ションマッピングな
ど。3月29日にはワイ
ワイグルメ博を予定し
ている。

県北からJリーグを



「県北からJリーグを目指す」と宣言するFC延岡AGATAの桑原社長(左から2番目)ら=4日、エンシティホテル延岡

FC延岡AGATA 目標は2023年 30キロ圏内に20万人地域と一体になれば

延岡市を拠点にサッカークラブを運営する「FC延岡AGATA(あがた)」(桑原英一社長)は4日、同市内で記者会見し、「県北からJリーグを目指す」と宣言した。来年は県内外から高卒と大学卒の選手5人を獲得する計画。スポンサー企業もすでに約60社集まっており、目標とする2023年までのJ3入りに向けて本格稼働する。(3面に関連記事)

運営するサッカークラブ「九保大エルフAGATA」は九州保健福祉大学の学生を主体に構成し、メンバー14人で活動する。現在は県サッカーリーグ2部に所属。今シーズンには戦線勝利と好調で、1部昇格も視野に入っている。

今後に向けてFC延岡Jリーグ入会には県内

AGATAは、川崎フロンターレやサガン鳥栖で監督を務めた松本育夫氏(日本サッカー協会後援会理事長)をテクニカルアドバイザーに迎えて体制を強化。介護業などの傍らで選手としてプレーする人材の獲得を進めている。

J3から九州リーグ、アマチュア最高峰のJFLを経て、J3へと続く。

J3への入会には成績のほかに、Jリーグが認定する「百年構想クラブ」であることなど一定の条件を満たす必要がある。

桑原ハードルではないが、FC延岡AGATAは21年に九州サッカーリーグ、22年にJFL入り为目标。桑原社長は「延岡市を中心に30キロ圏内

20万人がおり、十分に興業として成り立つと思っ

ている。地域と一体となって盛り上げたい」と意気込んだ。

同大学サッカー部総監督AGATA強化部長の山本順之さんは「市民の支えが大きくなっていけばJリーグも夢ではない」と話した。